

# 雑誌掲載記事集

## 2021年1-3月 Lambretta

1. ランブレッタなどの総輸入代理店がモータリストに移行
2. オートショップヨシマサ、ファンティック&ランブレッタ取り扱い開始  
部品供給は最重要。「正直な商売」信念に（編集長インタビュー）  
3銘柄の輸入販売元に
3. WeBike紙上モーターサイクルショー（Lambrettaブランド紹介）  
オートバイ125cc購入ガイド  
映えるランデブー（ハッピーエンデューロのーコマ）
4. 個性が光るスタイルとダイレクト感ある乗り味が魅力！（V125紹介）
5. 古い車両も道具として日常的に使う（Lambretta GP200オーナー紹介）  
モデル紹介（カタログ記事）
6. モータリスト・ファクトリーがOPEN！
- 7-9. トップインタビュー（MOTORISTS代表インタビュー）

ヤングマシン 3月  
二輪車新聞 1月15日号  
二輪車新聞 2月19日号  
二輪車新聞 1月1日号  
WeBikeマガジン  
オートバイ125購入ガイド  
ダートスポーツ2月号  
オートバイ125cc購入ガイド  
タンデムスタイル 3月号  
モトチャンプ 2月号  
単車倶楽部 3月号  
BDS Report 3月号

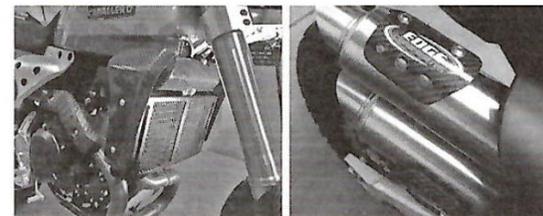
ヤングマシン  
(内外出版)  
21年3月号



↑本社事務所兼サービスセンターの「モータリスト・ファクトリー」は既に移転完了。独特なウォールペイントが目印だ。■東京都大田区仲六郷2-41-8 ☎03-3731-2388 <https://motorists.jp/>

全だ。ビス体制も万  
とにも、サー  
を見学できる  
て車両や商品  
した。安心し  
ル、内に用意  
ーターサイク  
内の、イズモ  
同じく大田区  
ヨールームを  
を展示するシ  
を展示するシ  
ス車両事業部  
が代表を務め  
に一段と注力  
オフィスは、  
国道15号線沿  
ス車両事業部  
で、同社社長  
が代表を務め  
に一段と注力  
オフィスは、  
国道15号線沿

新設  
ランブレッタ、SYMなどの総輸入  
代理店が新会社モータリストに移行



↑EDGE COMPOSITESによるキャバレロ用のラジエターサイドプロテクター(2万3100円)、マフラーヒートガード(1万4850円)などを販売開始。さらに今後ラインナップを拡大予定だ。

併せて、英国のカーボンバ  
ツメーカー「EDGE COM  
OSITES」の国内取り扱  
を開始。ファンティックのキャ  
バレロ用にモータリストが提案  
したパーツを販売していく。



# Lambretta

イタリアのスクーターブランドであるランプレッタは、プレミアムスクーターブランドとして認知されている。70年代に生産終了するものの、ファンの声援にこたえ近年復活を遂げた。モダンクラシックなスタイリングに惹かれる。



## Flex Fender models V50/V125/V200

ハンドル操作に応じてフェンダーも動くモダンタイプ

一昨年のEICMA(ミラノショー)で発表され、市場導入が待たれていた新色のグレーが登場。さらにフィックスフェンダーモデルで、日本での一番人気だったクラシック・オレンジがフレックスフェンダーモデルで販売が開始される。伝統的なスチールモノコックフレームをベースに、オー

ストリアのKISKA社の手による洗練されたデザインをまとい、どのようなカラーリングにおいてもランプレッタならではの魅力が際立つものとなっている。50 / 125 / 200ccのフルラインナップ展開とされ、それぞれ40万、44万、48万円。V125バイカラーは46万円。



## Fix Fender models V125

クラシックスタイルならではのフェンダー固定モデル

名門ランプレッタならではの、クラシックスクータースタイルを楽しむなら、固定式フロントフェンダーを備えるフィックスフェンダーモデルで決まりました。これまでのマットカラーに加え、かつてのGPシリーズをほうふつとさせるストライプをデザインして組み合わせた。フィックスドフェ

ンダーのデザインと相まってクラシック感を盛り上げる。ランプレッタにはヘルメットやアパレル、カスタムパーツなど豊富なアフターパーツが用意されているので、自分だけの一台を仕立てることや、ライフスタイルに合わせたコーディネートも楽しめるぞ。125ccモデル44万円。

## WeBike! マガジン (WeBike) 21年モーターサイクルショースペシャル



## オートバイ125購入ガイド (モーターマガジン) 21年版

### LAMBRETTA V125 Special Fix

<ランプレッタ V125スペシャル フィックス>

価格 41万円

カラー オレンジ、マットグレー

かつて世界中で人気を集めながらも長く活動を停止していた、イタリアン・スクーターの名門・ランプレッタが復活。スポーティな雰囲気や伝統のスチールモノコック構造を受け継ぎながら、デザ

インはKISKAデザインの手で現代的にアレンジされたもの。エンジンやサスペンションなどは最新のものです。現代な乗り味と実用性を備える。Fixはフロントフェンダーがボディに固定されているタイプ。

全長×全幅×全高  
1890×735×1115mm  
ホイールベース1340mm  
シート高770mm  
車両重量134kg

①空冷4ストOHC2バルブ単気筒 ②124.7cc ③- ④10.7  
⑤10.2PS/8500rpm ⑥0.94kg-m/7000rpm ⑦フューエルインジェクション ⑧6±0.2L ⑨- ⑩- ⑪Vベルト式無段変速  
⑫ディスク・ディスク ⑬110/70-12・120/70-12

### LAMBRETTA V125 Special Flex

<ランプレッタ V125スペシャル フレックス>

価格 41万円

カラー レッド、ブルー、ホワイト、ブラック、ブラウン

現代に復活した新生ランプレッタの中核となるモデルがV125。ランプレッタ伝統のスタイリッシュなボディに最高出力10PSを発揮する空冷単気筒エンジンを搭載、12インチホイールとしっかりとしたサ

スにより軽やかに街を駆け抜けることができる。Flexはフロントフェンダーがフロントフォーク側に固定され、ハンドル操作に合わせて可動するタイプ。フェンダーとカラー以外、Fixと基本的な部分は共通。

全長×全幅×全高  
1890×735×1115mm  
ホイールベース1340mm  
シート高770mm  
車両重量134kg

①空冷4ストOHC2バルブ単気筒 ②124.7cc ③- ④10.7  
⑤10.2PS/8500rpm ⑥0.94kg-m/7000rpm ⑦フューエルインジェクション ⑧6L ⑨- ⑩- ⑪Vベルト式無段変速 ⑫ディスク・ディスク  
⑬110/70-12・120/70-12

## ダートスポーツ (造形社) 21年2月号



サインハウス代表の野口さんは、もちろんファンティックのキャパレロ(500ラリー)で参戦。前を走るのはランプレッタのV200アウトドアカスタム。広島の本モトエスエックスさんと参戦していただきました。「写真に2台収まるように頑張りました(笑)」と野口代表

映える ランデブー



剛性感ある車体と引き締まったセッティングの足回りの相性も良く、走りは想像以上にスポーティ。パワーも充分で、タンデムも余裕でこなせる。



撮影車は46万円のバイクカラー。フロントフェンダー固定式の「FIX」と可動式の「FLEX」の2タイプを用意するラインアップもユニークだ。

1970年代当時のランプレッタを思い起こさせるスタイルは、オーストリアのKISKAデザインによるもの。個性的で優美なフォルムだ。



エンジンは空冷のOHC2バルブで10.2PSを発揮。引き締まったセッティングのサスペンションはスポーティな乗り味に貢献する。



ユニークな六角形のLEDヘッドライトが往年のランプレッタを彷彿させる。中央のランプレッタロゴ部分はモールドランプ。



シート下には奥行き深いトラップスペースも用意され、ヘルメットを収納することができる。スタイリッシュだが実用性も高い。



フラットな座面のシートの座り心地は上々。試乗車はブラックの表皮にレッドのステッチが施された上質な仕上がり。

## SPECIFICATIONS

全長×全幅×全高	1890×735×1115mm
ホイールベース	1340mm
シート高	770mm
車両重量	134kg
エンジン形式	空冷4ストOHC2バルブ単気筒
総排気量	124.7cc
ボア×ストローク	52.4×57.8mm
圧縮比	10.7
最高出力	10.2PS/8500rpm
最大トルク	0.94kg-m/7000rpm
燃料供給方式	FI
燃料タンク容量	6±0.2L
変速機形式	Vベルト無段変速
ブレーキ形式 前・後	φ226mmディスク・φ226mmディスク
タイヤサイズ 前・後	110/70-12-120/70-12

# 個性が光るスタイルと ダイレクト感ある乗り味が魅力！

## LAMBRETTA V125 SPECIAL FIX/FLEX

- 最高出力：10.2PS/8500rpm
- 最大トルク：0.94kg-m/7000rpm
- 価格：41万円/46万円（バイクカラー）

2017年に復活したスクーターの老舗ブランド「ランプレッタ」。その主力モデル「V125 スペシャル」は、レトロなスタイルと最新の装備を持つ自信作。早速このモデルの魅力を探ってみよう。

●PHOTO：森 浩輔、南 孝幸 ●TEXT：太田安治



テールランプはLEDのコンビネーションランプ。ウィンカーは同じくLEDで、左右の端にレイアウトされている。



226mm径のディスクブレーキを採用し、前後連動ブレーキも標準装備。試乗車はフロントフェンダー可動式の「フレックス」タイプ。



モダンレトロなデザインのメーターは上がアナログ式のスピード、下がデジタルタコメーター。LEDバックライトは7色から選択可能。



フロントポケットの左右には小物入れスペースも用意。右側にはスマートフォンの充電にも便利なUSB端子も備わっている。

美しいスタイルと剛性感ある走りが魅力。1970年代にイタリアを代表するスクーターとしてベストと共に、世を風靡した名門ブランドランプレッタ。2017年のミッドレンジで電撃復活して以来、現在は50cc、125cc、200ccの3タイプをラインアップ。それぞれ固定フェンダー仕様と可動フェンダー仕様がある。今回の試乗車は125cc可動フェンダーの「FLEX」だ。まずこのランプレッタ、オーストリアのキスカデザイン社が手がけたという美しいフォルムが目を惹く。長いボディ後部や角形ヘッドライトは往年のランプレッタを想わせ、新しさとレトロ感も巧みに融合させている。エンジンは約10馬力の4ストローク単気筒というところもあって、走行性解離感やなめらかな走りだが、実際に走り出してみるとなかなかスポーティ。約4000回転という高めの回転で速心クラッチが繋がるのでスタートダッシュに不満はない。全開加速は最大トルクが発生する7000回転を越えて力強く速度を乗せていく。車重が134kgとこのクラスでは重めなので、キビキビ走る、とは言いながらも、市街地で交通の流れに乗るには十分な動力性能。原付二種の法定速度、60km/hも余裕でクリア。タンデムでも非力さは感じない。試乗してみて印象的だったのがダイレクト感のあるハンドリング。通常のスクーターはメインフレームが足の下を通っているレイアウトで、乗り降りしやすい反面剛性を得にくく、フレームが揺れてフロントとリアがバラバラに動くネガ要素もある。一方、このランプレッタはプレス成形のスチールフレームとパイプフレームを組み合わせたモノコック構造で、高い捻れ剛性と曲げ

## RIDING POSITION



剛性を確保。ブレーキを握ったまま寝かし込んでも不安な挙動は出ず、意地悪クイックにも切り返しても捻れによる揺り戻しが来ない。前後12インチの小径ホイールゆえ、大きめの段差ではさすがに夕付も、すぐに収束するので不安はない。想像ににくいかもしれないが、乗り味はスクーターというより、まるでロードスポーツのようなフィーリング。ヨーロッパには右巻きの道も多いが、この操縦なら安心して走れるはずだ。なお125は前後連動ブレーキを採用してストッピングパワーも充分。ドライ路面ではABSの必要性を感じなかった。優美なスタイルと高い所有感、スポーティなハンドリング、充実装備と、注目ポイントはいっぱい。ランプレッタには他車にはない個性が光っている。（太田安治）

身長：163cm  
体重：42kg



単車倶楽部  
(造形社)  
21年3月号



ファンティックの主力となるスクランプラーシリーズ。125、250、500ccの3種類がラインナップされているのだが、基本的にシャーンは同一でエンジンが違うものだ

ランプレッタ、ファンティック及びSYMを取り扱う「モータリスト・ファクトリー」新ヘッドオフィスが誕生した！お洒落感漂うこの空間には2021年の未来漂うバイクが詰まっている！！

PHOTO&TEXT：NANDY KOSUGE (Office NANDY)



新年早々にオシャレなバイクを扱うお洒落な新店舗が大開店！！

旦那さんが一瞥で車両を見ている間に、ご家族の方はこちら二階でゆっくりくつろぐことができます。アイテムはどれもカワカッコイ！！

広い倉庫がベースとなっていて二階に上るとオフィスと共にグッズなどのショールーム。電動アシスト自転車やアパレル、グッズなどは直接購入可能です！



「各ブランドとのつながり、国内のお客さまとのつながりを大切に、今後も最前線を走る覚悟です」と新店舗で意気込みを見せる、代表の野口さん

テーブルを一つとっても洒落た感じが出ているでしょ？他車種オーナーであっても、この空間にいることが至福な気持ちになりますよ

ファンティックからリリースされているフラットトラックシリーズの名が刺繍されているロフスタ  
×ファンティックのキャップ (¥4,560/税別)



一階の奥には整備スペースが設けられている。新作オプションパーツなどを取り付けた車両はここでいち早く見られることだろう。なお、社用車のハイエースはトラック仕様にカスタマイズされている。これも気になる人は多いのでは？

モータリスト・ファクトリーは京急本線雑色駅から徒歩2分、国道15号線沿いに位置し、首都高速1号羽田線の羽田IC、大井ICからも近い。新旧ランプレッタも置いてますよ！

# 『モータリスト・ファクトリー』がOPEN!!



モータリスト・ファクトリーにドーンと描かれた壁面が見事。その前に展示されていたのはエンデュロ50というファンティック製の2ストローク489cc。とてもミニバイクとは思えない迫力がありますね。壁の前に自分のバイクを置いて撮影する……なんて映せることも可能です！

オシャレで楽しい外車を見たいならこちら！  
2021年1月に新オープンしたのがこちら。『モータリスト・ファクトリー』『モータリスト』とはモーター・エンジンを用いて車輪を駆動する、人生を豊かにする乗り物をこよなく愛する皆様の総称として名付けられたもの。…となればスタッフの方々ももちろん全てモータリストなのは当然だ！  
取り扱っているのはランプレッタ、ファンティック及びSYMといった海外ブランドのモーターサイクル。そして電動アシスト付き自転車「eBike」の輸入販売に関する情報も提供して行われる。  
更にプレミアム・モーターサイクル・アパレルブランドである「Pando



モータリスト

東京都大田区仲六郎2-41-8  
TEL：03-3731-2388  
<https://motorists.jp>

Motoristやオフロードライダーに安心と安全のプロテクションを提供するプレミアム・ブートブランドの「TCX」といった取り扱っている商品も、それら商品は実際に手にするとはもちろん、購入も可能なのは嬉しい限り。  
今までになかったオートバイの楽しさを提供してくれる場所が『モータリスト・ファクトリー』。是非足を運んでみて欲しい所存だ！

● 今後のバイク業界を占う ●  
シリーズ  
“The Top Interview”

モータリスト合同会社 代表

## 野口 英康

マツダ時代に海外経験を10年。その後、フォードによる経営権の取得を機に二輪の世界へ。ハーレーではビューエルの統括責任者として、その後のKTM、サインハウスでは社長として業績向上に大きく寄与した。そしていま、海外3ブランドを引っ提げ、新たな挑戦を開始した。

—— 今度は何を仕掛けるのだろう。野口さんにはそんなイメージがあります。昨年12月にモータリストを設立されたんですが、まずは野口さんの経歴と会社設立に至るまでの経緯を教えてください。

野口 元々は自動車メーカーのマツダに10年間、勤務していました。商社企画を担当し、北美マツダにも1991年から97年までの6年間駐在していました。マツダはアメ

# 怖いほど壊れま に奇跡に近いと

業の一つであるハーレーダビッドソン・ジャパンに入社しました。

のト  
レーニン  
グなども担当し  
ました。ハーレー  
は輸入会社なので、当時は技  
術系のスタッフが一人もいな  
かったのです。私はエンジニ  
アでもあるので、ハーレーの  
テクニカルサービス全般を担  
う仕事も行いました。その  
他、本国のサービスマニユア

# ランブレッタは せん。これはまさ 思います。

The Top Interview / vol.23

—— その後はKTMの社長に就任されました。

—— マツダを去る決断をした理由が。

● 今後のバイク業界を占う ● シリーズ “The Top Interview”

社長として仕事をしたのは、ちょうど5年間でした。その後、四輪インポーターの仕事をして2年ほど行った後、サイン・ハウスの社長に就任しました。これもオファーを頂いたため、お引き受けしました。——まさに「引っ張りだこ」ですね。

野口 ともありがたいお話です。基本的に私はあまり断りませんが、もちろんその時々、事情が許せばの話ですが、ご縁を頂いた方々のお話はしっかりとお聞きします。サインハウスでは、スタッフの協力のもと、1年間で売上を30%伸ばしましたが、諸事情により当時、サインハウスが扱っていたオートバイ販売の権利と在庫車両を買取り、新会社を立ち上げることにしました。取扱ブランドはランプレッタ、ファンティック、そしてSYMです。設立は昨年12月のことです。

—— 会社は合同会社です。珍しい形態ですが、どのような理由があるのでしょうか。

野口 ビジネスの道筋をつけるのが私の仕事だと思っております。これが整えば後進に道を譲ろうと考えています。でも、会社が株式会社と株の譲渡が必要となります。いまの若い人は、そんなお金をそう簡単には作れないでしょう。合同会社だと会社を譲る時の煩わしさを省けるので、あえて株式にはしなかったというわけです。

—— 独立後は様々な声がかかるとは思いますが、聞かれるようになったと思います。

野口 そのそうですね。不安視されるかたもいらっしゃると思います。そんな時は、私ほどのような考えのもと、この事業を始めたのが、どういうバックグラウンドがあるのか、どのようなスタッフがどういったテクニカルサービスを展開するのか、といった説明をお聞きします。まずはランプレッタ、現状の動きはどのよう

**私たちの仕事は、販売店様の要望をカタチにすること**

—— 3ブランドについてお聞きします。まずはランプレッタ。現状の動きはどのよう

な感じでしょうか。

います。

—— ランプレッタには独自の世界観がある。

野口 そのですね。他メーカーのスクーターと比較される方も多いのですが、具体的に比較した方ほど、ランプレッタがいい、と言っています。支持される理由は2つあります。1つはスタイリング。ランプレッタが好きな方の多くは、そこにトロなファッション性を求めます。こいつ方には、まさにベストマッチです。けれども、ランプレッタが現代風のデザインだったと、ランプレッタを置く必要はないと考えるのです。もう一つはトリアルル的な。サインハウス時代も含め3年扱ってきましたが、怖いほど壊れませんが、これだけ壊れないのは奇跡に近いと思います。この話をすると、販売店ではとても安心されます。

モータリストの広告は、すべてイラストで表現している。写真に比べ注目度は高いという



それは大きなアピール材料ですね。では、ランプレッタの取扱店を増やすための活動と既存店への対応については。

野口 弊社の仕事は、販売店様がバイクを売るためのお手伝いをする事です。弊社ならこいつのお手伝いができます、と提案したうえで、数ある商材の中で、ユーザーに提案できる良い商材を一つ増やしませんか、とアプローチします。すでに弊社の製品を扱って頂いている販売店様には、こちらから「〇をやってみませんか」という依頼は一切行いません。もちろん提案はさせて頂きますが、あくまでも主体は販売店様。そういったなかで、例えば店で試乗会をやりたい、と希望すれば、私たちが試乗車を用意します。販売店様の意図が固まったら、徹底的にお手伝いをさせて頂く。つまり私たちの仕事は販売店様の要望をカタチにする事です。

野口 日本は80年代半ばにはトリアルブルムが発生しました。インポーターも存在したのですが、ブルムの終焉とともに輸入業者も何社が変わったため、イメージとしては新しく感じられると思います。一部、年配の方からは「ファンティックって、トリアルブルのファンティック」と聞かれることが少なからずありま



ですが、ほとんどの方はご存知ない。「このメーカー」という語間から会話が始まることが多いですね。取扱店は現在の取扱店が全国30店で目標販売台数は年間8000台です。私はそれくらいは販売できる力のあるメーカーだと思います。

——海外での評価は。

野口 ファンテックはヨーロッパでしか販売されていません。北米での販売もなくアジアでもファンテックを売っているのはウチだけです。今年からドイツやオーストラリアでも販売される予定です。生産はすべてイタリア国内なのですが、ここには強い拘りがあるのです。ファンテックをひと言で表現すると「真面目な会社」と言えます。3度目の再生となる今回は、イタリアの投資家集団が出資し復活したのですが、そのグループのオーナーはイタリアにある企業にしか出資しません。世界に向けて製品を発信するまでもなくイタリア企

業を育てることを目的としているからです。投資し成長しなから抜こうという考えではないのです。これは余談ですが、ミランで開催されるEイクマでプレゼンテーションを行う時は、どのメーカーも英語で話します。けれどもファンテックだけはイタリア語です。

**電動モビリティの時代を先取りした楽しさの提供は十分に可能**

——大きな安心材料ですね。次にSYMはどうでしょうか。野口 ご存知の通り紆余曲折がありました。ホンダ車のOEM生産を請け負っていたメーカーであり、現在はピュンタイの四輪車も生産している。技術力があります。KYMCOのような、斬新な技術やきらびやかさはないけれど、真面目に製品を作っている。良く走るレスポーターだし壊れないんです。職人気質を感じですね。シェアについては、台湾ではKYMCOには及ばないものの、高い

ア語通ず。もちろん英語は話せますが、そこはあえて曲げないんです。我々はイタリアの企業である、という主張ですね。それがプライドなのです。そういう姿勢が信頼にも結び付いているのかなとプライドの高い人は、途中で投げ出したりはしないものな

シエアを誇ります。ヤマハとほぼ同等の16%くらいです。欧州では、国によって異なりますがSYMのシェアは高いですね。なかでもドイツでは根強い人気があります。話は逸れますが、ランプレッタはSYMの工場を生産しています。ランプレッタのスタッフが駐在しており、品質チェックを行っています。設計はイタリアだとしてもSYMが製造委託を受けています。

——ユーザーのSYMに対する印象はどうでしょうか。

野口 よくある、という感想が多いです。世界的に製品供給が滞っているいまこそ、SYM拡販のチャンスなのだと思います。

——というところは、生産ラインは止まってはいませんか。

野口 正常に稼働しています。これが強みです。これは本体だけではなくパーツも同様。国内に多数、ストックしています。パーツは注文頂いたらその日のうちに出荷できる体制を整えています。国内メーカーと同等かそれ以上だと思います。これはSYMに限らずランプレッタもファンテックも同様です。

——販売店数

野口 小池都知事が2020年までに都内で販売される新車すべてをハイブリッド車(EV)や電気自動車(EV)に切り替える方針を示しました。

野口 それが世界的な潮流であれば、仕方ないことだと思います。過去にも技術の進歩、技術革新による壁を乗り越えてきたので、超えられないことはないと思います。個人的な好みで言いますが、私は内燃機が好きなのですが、商売とは別。その時代に適応できるような方法を考えるでしょう。幸いSYMはEVバイクを製品として持っていますし、ネットで発表するなどの産業界に手は打っています。ファンテックについてはすでに進んでいます。元々、このメーカーが復活したきっかけは、電動アシスト自転車であり、これが最初のモビリティだったのです。

——電動モビリティにも

野口 オートバイがEV化し



**と目標販売台数について教えてください。**

野口 新車売っている販売店数は20店です。過去に販売経験のある販売店は300店ありまして、実際に動いている店は200店ほどです。リストを引き継いでいるので、確かな数字です。台数目標ですが、将来的には、以前のインポーターと同じ水準への引き上げを考えています。最も売った年で50000台で、その前後でも40000

台は販売しているの、そこを目標にしています。まずは1000台ですね。SYMはリースナブルで良い商品だと思います。販売価格については、国産メーカーを抜く一部の販売店から、「ウチは3万円値引きしているの、それに合わせてほしい」という話を受けることがありま

りま。値引きは当たり前だから、とこのが理由のようです。もちろん、その申し出を受けるとはありませんが、そのような時は「値引きして誰が得をするのか」と逆に尋ねます。値引きしないと売れないことはないと思います。

——コロナの影響はどう

野口 物流面に深刻な影響が出ています。コンテナ不足ですね。3メーカーでも生産は滞りないのですが、輸入が

滞っているのです。また、物流費(コンテナの運賃)もこの一年の間に驚くほど値上がりしました。航空便もかつてない需要の高まりから、国際貨物の運賃も高止まりしているのが現状です。

——この先、どのような展開を考えていますか。

野口 オートバイの面白さを可能な限り伝えていきたいと思っています。オートバイは単なる「モノ」ではなく「乗って楽しむモノ」です。遊びのフィールドがもっと楽しさをイラストで表現しているのです。他社ではあまり見ない手法だと思っています(と聞く)。雑誌の掲載ページを謳って、この広告、販売店の要望に応じて、広告そのものをポスターにし、店に貼って頂いたりします。

価格が上がったら、販売台数は減るでしょう。そこでポイントとなるのは、買わなくなった人に対する対策です。彼らの多くは、間違いなく楽しさを忘れたくないと考えている人たちです。そんな彼らには、ファンテックの電動アシスト自転車を使った遊びを提案できるだろうと考えています。フルサスペンションのマウンテンバイクは、日本では高級車のグレードに入ります。一番安いもので40万円後半です。でも、モーターとバッテリーを備えたフルサスタイプの自転車としては、決して高いわけではないのです。バッテリーの容量は現在、日本に流通している電動アシスト自転車の中では最大クラス。モーターも、トルクウェイトレシオは世界一と言われているモノを積んでいます。このソニーの製品は、弊社ですべてに抑えています。そういう意味では、違う種類の、しかも電動モビリティの時代を先取りした楽しさは、提供できると思っています。



モーターリスト社内に展示されたCABALLERO Scrambler 500とFANTIC Enduro。2FにはeBikeを展示